



三重県保健環境研究所

# みえ保環研ニュース

私たちは、皆様の健康で安全な暮らしを科学でサポートしています。

第 61 号(2016 年 6 月)

## ～ジカウイルス感染症～

### はじめに

中南米を中心にジカウイルス感染症が話題となっています。2016 年 2 月には、WHO がジカウイルス感染症の感染拡大に対し「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言、また、ジカウイルス感染と胎児小頭症との関連が疑われるなど世界的な問題になりつつあります。今回はこのジカウイルス感染症(ジカ熱)について紹介したいと思います。

### ジカウイルス感染症とは

ジカウイルスは、1947 年にウガンダの Zika forest(ジカ森林)のアカゲザルから初めて分離されました。ヒトからは 1968 年にナイジェリアで行われた研究の中で分離された、とされています。デング熱の原因病原体であるデングウイルスと同様、フラビウイルス科フラビウイルス属のウイルスで、ネッタイシマカやヒトスジシマカによって伝播される場所も共通です。熱帯・亜熱帯地域に分布しているとされ、ジカウイルス感染症の現在の流行地は中央および南アメリカ大陸、カリブ海地域とされています。

ジカウイルス感染症は、感染後に軽度の発熱、発疹、結膜炎、関節痛、筋肉痛、倦怠感、頭痛等を生じるとされていますが、症状としては重篤なものではなく、軽度であるとされています。また、母体から胎児へ感染した場合の小頭症などの要因(先天性ジカウイルス感染症)やギランバレー症候群の要因となる可能性が示唆されています。

### 媒介蚊の特徴



< 吸血中のヒトスジシマカ 国立感染症研究所 HP より >

ジカウイルスを媒介する蚊として、ネッタイシマカ(*Aedes aegypti*)とヒトスジシマカ(*Aedes albopictus*)が知られています。ともにヤブカ属シマカ亜属に属する体長 4.5mm ほどの吸血性蚊です。ネッタイシマカは熱帯・亜熱帯に広く分布しており、日本でも第二次世界大戦後の一時期見られましたが、日本国内への定着は現在のところ確認されていません。ヒトスジシマカはアジア、北アメリカ南東、ブラジル南東、ヨーロッパの地中海沿岸等に分布していることが知られています。英名 Asian Tiger Mosquito のとおり、アジア地域に生息していた蚊ですが、北アメリカへの日本からの古タイヤ輸出に伴い、古タイヤ内に付着した卵が運ばれ、北アメリカにも広がったとされています。日本国内では青森、北海道を除く全土に生息しており、三重県では最も普通に見られる蚊の 1 つです。もともと

は雑木林や竹林等の木の洞のような小さな水たまりで繁殖する生物ですが、人家近くでは植木鉢の水受けや古タイヤ、捨てられた空き缶等の水たまり等で繁殖します。卵で越冬し、気候が温暖となる4～5月ごろから11月頃まで野外で活動します。普段は花の蜜等を吸って生活していますが、雌の蚊は産卵のため吸血行動をするようになります。

ネッタイシマカ・ヒトスジシマカの吸血行動は待ち伏せ型で、普段は藪等に潜んでおり、吸血対象となる動物が接近すると近寄って行って吸血します。活動範囲は50～100mとされ、約1か月の寿命の間に4～5回吸血すると考えられています。吸血時に唾液を動物体内に注入しますので、この唾液中にウイルス等の病原体が入っていると感染が成立する場合があります。

## 蚊媒介感染症の予防

ヒトスジシマカはデングウイルス、チクングニアウイルス、ジカウイルスを媒介することが知られています。日本のような四季のある温帯地域に属する国では蚊の活動は温暖な季節に限られ、冬の越冬期の卵にはウイルスが存在できないことが解っているため、これらの蚊媒介性疾患が海外から侵入した場合、春から秋に疾病の発生が認められるものの、ウイルスが越冬時に耐えられず、一シーズン限りとなると考えられます。しかし、海外からの入国者だけで年間1000万人を超える現在、蚊媒介性疾患の日本国内への侵入リスクは常に存在すると言っても過言ではありません。疾病予防の観点から考えた場合、すべての蚊媒介性疾患に言えることですが、媒介する蚊がいなければ疾病の発生は起こりませんし、ウイルスを保有した蚊に刺されなければ

感染は成立しません。したがって、蚊媒介感染症の予防には、蚊対策が重要な位置を占めます。

蚊の対策にあたっては、蚊の生態に応じた対応が必要となります。春先～8月までは蚊の産卵・孵化が盛んで、主に蚊が増えつつある時期ですから、蚊そのものを退治する対策とともに、蚊を増やさないようにする対応、すなわち卵や幼虫を退治する対策が重要です。ヒトスジシマカは空き缶、植木鉢の皿、古タイヤ、側溝等の小さな水たまりで増殖しますので、側溝の掃除を定期的にする、空き缶等の環境中のごみを減らすなどの対策で身の回りの蚊を減らすことが可能です。また、8月を過ぎると蚊の個体数は減少を始めますので、殺虫・捕虫等で成虫の個体数を減らす対応に注力することで、比較的速やかに蚊を減少させることが可能です。

また、蚊に刺されなければ蚊媒介性疾患には感染しませんので、森林や藪・草むら等、蚊の生息するような場所に入る場合は長袖・長ズボン等で肌の露出を控えること、虫除けスプレーを使用すること等で蚊の刺咬機会を減少させることが感染防止という点からも重要と考えられます。

## 三重県での対応

ジカウイルス感染症は平成28年2月5日に感染症法上の4類感染症に追加されましたので、診断した医師は保健所への届出が必要となります。ジカウイルス感染症検査については、発生動向調査事業等により、保健所を通じ三重県保健環境研究所での検査が可能です。当課ではジカウイルス等の遺伝子学的検査を中心に、蚊媒介性疾患について検査対応を実施しています。

—編集委員会から—

みえ保環研ニュースについて、ご意見・ご質問等がございましたら下記までお寄せください。

### 三重県保健環境研究所

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11 TEL 059-329-3800 FAX 059-329-3004

E-メールアドレス hokan@pref.mie.jp ホームページ <http://www.pref.mie.lg.jp/hokan/hp/index.htm>

三重県感染症情報センターホームページ <http://www.kenkou.pref.mie.jp/>